

2022年11月29日

町田市長
石坂 丈一 様

町田市福祉のまちづくり推進協議会
会長 川内 美彦

答申書

2022年3月8日付け21町地福第592号で諮問のあった「まちだユニバーサル社会推進計画（第3次町田市福祉のまちづくり推進計画）」の策定について、本協議会として慎重に審議を重ね、この度その結論を得ましたので、別冊のとおり答申します。

2022年11月29日

町田市長
石坂 丈一 様

町田市福祉のまちづくり推進協議会
会長 川内 美彦

町田市福祉のまちづくり推進協議会の答申への付帯意見

答申に関して、会長として付帯意見を述べます。

1 「障害の社会モデル」の理解促進

これまで町田市で取り組んできた「心のバリアフリー」や「情報バリアフリー」の普及啓発の取組に加え、「障害の社会モデル」への理解を促進し、障がいのある人や高齢の人の人権と尊厳を尊重するといった、社会全体の基本的な姿勢を高めていく取組が不可欠です。また近年、外見から困難が分かりにくい人のニーズに気づき、理解を深め、必要な配慮に努めることの重要性が指摘されています。ハード整備とともに、こうした人々の意識変革があって、初めて障害者権利条約に言う「他の者と平等」な社会が生まれます。全ての市民が相互に尊重しつつ支え合いながら共生するまちづくりへの御尽力をお願い申し上げます。

2 施設整備等における知見や課題の共有・活用

町田市では、これまでに市が行ってきた事業に対して、その整備状況だけではなく、そのようになるまでのプロセスのどこに課題が潜んでいたかを事後評価し、データベース化しております。これはさまざまな部署の方が参照し、同じようなプロセスを繰り返さないように活用されることを目的としていますが、今後はこのデータベースの情報を十分に活用していくことが求められていると思います。これは「ユニバーサル社会」を目指すために必須である「スパイラルアップ」の取り組みであり、継続していくことで市の財産となるものですから、更なる活用をお進めいただきますようお願い申し上げます。